御祝辞

「札幌少年ラグビースクール開校 30 周年に寄せて」

スクール OB 父母の会

会長　露木　茂　様

(平成 14 年度卒　露木　光さんの父)

私が初めて札幌少年ラグビースクール(ＳＪＲＳ)の事を知ったのは、札幌に転勤になってすぐなので、平成３年ごろ、今から 20 年近く前だとおもいます。アラビカという喫茶店のマスター椿さんにお会いして、越智さんを紹介していただきました。その時は、まだ子供が小さく、二人ともまだ小学校にも入っていない時でした。熱烈なラグビーフリークである私は、すぐにでも息子達をラグビースクールに入れたかったのですが、スクールは小学３年生からだよと言われて断念したのを覚えています。

その後、子供達は親の思惑とは離れて、小学校のサッカー少年団に次々と入ってしまいました。そして何年か経ち、小学校４年だった次男が、自分からラグビースクールに入りたいと言い出したのです。正に天の助けとはこの事だと思いました。聞けば、小学校の同級生が二人スクールにいて興味を持ったというのです。

私はこの信じられない偶然に感謝しました。

それから私とＳＪＲＳとの関わりが始まりました。息子を連れて行きながら、コーチ陣のお手伝いをして一年が経ちました。その間、長男が時間がある時は二人を連れて行っていました。

しかし、学年が変わる頃、次男が、友達との仲たがいなのか、突然一年でスクールを辞めると言い出し、これでスクールとの関わりも終わりかなあと思っていました。ところが、またまたサプライズで、今度はたまに連れて行っていた長男が、中学に入学にあたり、「俺がラグビースクールに入る」と言い出したのです。

(どうも家にあったドラマ「スクールウオーズ」のビデオを見て感化されたようなのですが••。)

本当に不思議な巡り会わせで、引き続きスクールに関わる事が出来るようになりました。ただその後も順調ではなく、中学の部活のサッカー部も並行して入っていた為、日曜日に午前はスクール、午後は部活などという時もあり、身体が小さくて、体力が無かった時期なので、相当きつかったようで「お父さん、僕、どうすればいいの？」と泣いていた事を思い出します。しかし、その時に長男が選択したのは、部活のサッカーではなく、ラグビーでした。

これも、とても嬉しかったです。

長男の時代は、中学一年生の時は札幌だけでメンバーを組めましたが、二年時、三年時は小樽のスクールとの合同チーム札樽連合として大会に出場しました。この時は後に仙台育英学園高校から東海大の主将となり、トヨタ自動車でトップリーガーになった小樽スクールの荒木君をはじめ、札幌でも竹林君、白土君、赤塚君、神代君、若崎君、赤崎君、佐藤君など、メンバーが揃い、三年生の時は楽しい一年でした。

三年時には山の手高校の一年生チーム(後にリコーでトップリーガーになった森山君もいました)も破り、全道スクール大会でも函館、北見に圧勝しました。８月の北見のフェスティバルにも札幌選抜(この時は大麻中のメンバーにも力を借りました)として招待され、アウェイで、スピリッツオブオホーツクを完璧に撃破しました。

この時のメンバーは高校進学以後もラグビーを続けた子が多いです。

我が家の長男はその後仙台育英学園高校から、専修大学、ＪＲ北海道へと進み、今も会社のチームと北海道バーバリアンズでラグビーを続けています。

これもＳＪＲＳで教えていただき、学んだ事の賜物と考えています。

私自身は子供達がスクールにお世話になる前はクラブチームでプレーしていましたが、子供達がお世話になっていた時期とその後、合わせて８年近く、指導のお手伝いをさせていただきました。

スクールでご縁が出来たご父兄とのおつきあいは、私達家族の財産です。又、高校、大学でも父兄の縁で沢山の友人を得る事が出来ました。これもラグビーが持つ大きな力のお蔭だと強く感じています。又、この間にスクールで先輩コーチ陣から教えていただいた事は、今でも私の財産になっています。

その教えを活かして、中央市場ラガーの監督も務めました。

そして、我が子だけでなく、このＳＪＲＳで学んだ子供達はラグビーを通じて、礼儀や、仲間、弱者を思いやる気持ちを身につけてくれていると信じています。

それから、スクール生もご父兄の皆様も、ラグビーを通じて沢山の友人、ご縁を作って下さい。

あらためて、ＳＪＲＳが今後も長く続いていく事を祈ってやみません。

30 周年おめでとうございます。

ありがとうございました。

追伸：私は今までの人生で、ラグビーから沢山のものをいただいてきました。

これからの人生では、微力ですが、ラグビーに恩返しをしていきたいと思っています。